令和4年度(2022年度) 学校評価総括表　　【伊丹市立笹原中学校】

教育目標	予測不能な未来を自立して生き抜く知・徳・体バランスのとれた「人間力」のある生徒の育成
重点目標	(1)受容と共感にもとづいた生徒理解を基盤に、規律ある学校生活のもと、主体性、創造性、豊かな人間性、確かな学力を育む (2)全教育課程を通して、高い道徳性と人権意識を育み、保護者と地域との連携のもとで、共に支え合う仲間づくりを行う

主要施策	施策目標 基本施策		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・教材や指導法などを工夫し、わかりやすい授業づくりに努める。 ・チーム学習・話し合い活動や発表を積極的に授業の中で取り入れ、学びの共同体づくりに努める。	・効果的なサクセスシートを全学年実施する。 ・ICT機器(スクールタクトなど)を効果的に活用し、意見を共有しあえる環境づくりを図る。 ・笹トレを活用し、教え合いの基盤を定着させる。また、各教科の授業の中で効果的に笹トレのノウハウを取り入れる。 ・「笹トレ」や定期テスト前の放課後学習、3年生の7校時学習の実施により授業時数を確保するとともに、地域と連携した土曜学習の実施により学力を保障する。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上になる。	B	・生徒アンケート「授業はわかりやすい」の項目では91%が肯定的な評価をしている。しかし、A評価は43%と低い。丁寧であるが授業がマンネリ化している可能性が考えられる。 ・生徒アンケート「授業で話し合いや発表する場面で、積極的に発言できる」の項目は肯定的な評価が昨年度60%であったが、今年度も61%と現状維持になっている。授業が「講義形式」ばかりになってしまっていないか、などの改善を要する数値となっている。	・サクセスシート(ふりかえりシート)については、授業評価アンケートにて調査を行った。生徒自身が効果的に感じていないという意見が多かったので、振り返りの視点を生徒が感じることができるようにする。 ・「笹トレ」については、今後も問題の改良、取り組み等に工夫を重ね今後も継続する。学年を越えて教え合い、学び合うことで学びを確実なものにするとともに、問題が解ける楽しさを味わいながら自尊感情を育てていく。	・生徒が発言する機会がある授業をもう少し増やせるよう工夫をしてほしい。教師が問いかける授業形態を増やせば、生徒が発言する機会も増えるのではないか。 ・講義式の授業も必要であるが、生徒が主体的に学んだり、覚えたりできるよう、話し合いや考える場面は大事にしてほしい。 ・協働的な学習は上手くいくと、いい仲間づくりができます。ただ、上手くとけこめない生徒への配慮も必要です。 ・「笹トレ」で教え合うことで、共に考え、解決できる楽しさが身につくのですね。 ・小学校でも教え合い学習を取り入れたところ自尊感情が向上しました。
		新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・デジタル機器を活用し、生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるように教材を工夫し、わかりやすい授業に努める。 ・様々な方法で評価資料を収集し、生徒の学力や学習の達成度の評価を適切に行う。	・ICTの活用を推進し、その状況が保護者に伝わるよう、授業参観やHP等でアピールしていく。 ・さらなるICT化の推進を目指し、タブレット型端末の活用やオンライン授業の取組等を進めていく。 ・生徒、保護者が納得できるような基準を設定し、シラバスで示す。また、評価資料を収集し、生徒の意欲を高める評価に努める。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上になる。 ・教職員のアンケート結果においては「A」「B」評価の割合が100%になる。	A	・教員アンケート「電子黒板やプロジェクターなどのデジタル機器を授業に取り入れている」の項目の結果が昨年度から4.6ポイント減少し、95.4%となった。これは学校としてICTの活用が浸透してきたからこそ、評価が厳しくでたのではないかと考えられる。一方で、生徒・保護者ともに同じ内容の項目では98%と高い数値となっており、昨年度と変わらない。当たり前に活用していることの証と言える。 ・教員アンケート「情報機器の適正管理、情報セキュリティポリシーに基づき、情報モラルを遵守している」の項目が昨年度から8ポイント増加し、95.5%となった。教職員の情報モラルの遵守に対する意識が高まってきたと思われる。 ・評価に関するアンケート項目では、教員アンケートでは95.4%と高い数値だったが、生徒アンケートでは昨年度より5ポイント減少し92.8%、保護者アンケートでは3.6ポイント減少し89.3%となった。	・一人一台のタブレット端末をより効果的に活用する方法を検討していく。 ・生徒も授業の中などで、日常的にタブレットを使用するようになっているからこそ、情報機器の適切な使用法について、スマホ講演会などを開催し指導をしていく。 ・オンライン授業の実施について推進していく。 ・生徒、保護者向け学習指導要領にのっとった、評価基準をしっかりと提示し、評価方法や評価資料の徹底をはかり、説明責任が果たせるようにする。	・ICTの活用はすごく進んでいると思う。さらなる進歩を目指してほしい。特に、情報リテラシー(モラル、情報の取捨選択、活用など)の指導をお願いしたい。 ・デジタル機器の活用は、集団でも個人でも役立つものであるので、今後も活用方法の検討を進めてほしい。 ・生徒はもちろん、先生方が研修できる環境を設定し、新しいツールを使いこなせるようになってもらいたい。 ・SNSトラブルが増えていることから、「スマホ講演会」が有意義であると感じます。 ・授業で、デジタル機器の活用や「めあて」の提示が、データとして高いのは、先生方の授業改善の取組の成果だと思われる。 ・一方、「振り返り」や「わかりやすさ」は数値がそれほど高くないので、改善の余地がある。 ・論理的思考力を身につけるためのツールとしてのICTの活用であり、ICTの活用が目的化しないよう、手段であることを再度意識してほしい。

主要施策	施策目標 基本施策		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	家庭学習の充実 ①家庭学習の習慣化の推進 ②デジタル教材の活用	・各教科より進度や理解度に対応した課題を出すことで、家庭学習の習慣化および充実を図る。 ・授業内容の確認や学力向上の成果が見られる課題を作成する。	・単元テストの充実を図るとともに、生徒自ら課題を発見して、家庭で取り組めるような学習のシステムを構築する。 ・生徒が意欲的に取り組み、率先して提出しようと思える課題にするために、提出後の点検をスムーズに行い、次の学習への意欲が高められるような、励みになるコメントや間違いの訂正、疑問点への回答など個別の指導に努める。 ・家庭内で学習する環境に課題がある場合は、放課後学習や土曜学習などを通して、学校で学習時間を確保し、自主学習の習慣化を図る。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。	B	・生徒アンケート「各教科や学年ごとに出される課題(提出物)は、家で取り組んでいる」の項目は肯定的な評価が78.8%だった。 ・サクセスシートを家庭学習で生かせる教科とそうでない教科があった。 ・宿題を家庭ではなく学校で取り組んでいる生徒たちが多いという実態から、家庭学習の習慣化については個人差が大きいことがうかがえる。 ・いくつかの教科で、「みんなの学習クラブ」「ドリルパーク」を用いて、生徒自ら課題を見つけて取り組む家庭学習のシステムを実施し始めており、今後の学習意欲の向上につながる可能性がある。	・サクセスシートについては、研究テーマとリンクして、効率のよい利活用を考えていく必要がある。 ・家庭学習の習慣が身についていない生徒を中心に、タブレット等を活用しながら保護者とも連携し、生徒の自主学習力の向上を図る。 ・各教科で課題を出す際に提出締切を明らかにするとともに、学級の連絡ボードを活用し、徹底を図る。生徒が課題を提出日締切当日に学校で慌てて取り組んでいる様子があれば声かけをし、事前に取り組むよう促す。 ・単元テストの位置づけを明確にする。 ・生徒が主体的に家庭学習に取り組めるようなシステムの構築を図る。	・家庭学習の習慣化は個人差が大きいと思う。できていない生徒への指導を明確にして、計画を立てる習慣を身につけさせることが大切ではないか。 ・家庭に学習する環境がない生徒には、その時間や場所の提供ができればいいのではないかと思う。家庭学習に関われない保護者もいると思うので、保護者との連携が必要ですね。 ・家庭学習もデジタルへの移行が入ってくるが、手書きや自分で考える学習とのバランスをとってほしい。 ・家庭学習の充実については、小学校段階からの習慣化も重要な要素であると考える。今後の連携に期待したい。 ・家庭学習＝宿題になってしまうことが課題ではないか。そもそも、宿題は授業を補完するものなのか、それとも、家庭学習のためのものかを、一度考えてみてもいいのではないか。
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・生徒指導提要の改定内容や本校生徒指導共通理解事項、笹ナビに基づき、教職員が連携して組織的な対応を行う。 ・いじめ防止などのための基本方針に基づき、保護者や関係機関との連携のもと、適正な対応を行う。 ・生徒自ら正しい判断をし、よりよい学校を創り上げていくための、自治の力を育てる。	・学校の教育方針や指導方針、いじめ基本方針などを教職員が熟知し、深く理解した上で、あらゆる機会を活用して、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明できるように、組織の一員としての自覚をもって職務に当たる。 ・学校のルールを、生徒会、PTA、地域と連携して見直したり、あるいは新たに作ったりするなどの活動を継続する。 ・日々の生活の中で、生徒が自主的に考える力を育むための機会を与える。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が90%以上になる。保護者と生徒両方のアンケートにおいてこれを達成したい。 ・不登校生徒数を令和4年度より減少を目指す。 ・全学級がQ-Uにおける学級満足度50%以上を目指す。	B	・生徒アンケート「先生はいじめや友達とのトラブルにしっかりと対応してくれる」の項目は93.3%と昨年度と同様に高い評価を得ている。保護者アンケート「学校は、いじめや子ども同士のトラブルなどにしっかりと対応している」の項目は89.8%となっており、昨年度より0.5ポイント減少している。さらに組織として迅速かつ丁寧に対応できるように研修会等で意識の統一を図る必要性がある。 ・職員アンケート「問題行動等に対して組織的に対応できる体制が整っている」の項目は86.3%で昨年度より13.7ポイント減少している。継続的に組織として体制の整備を図っていく必要性がある。 ・不登校生徒数については、昨年度同時期より、その出現率は1ポイント減少した。 ・Q-Uについては、学級満足度50%以下の学級があった。また、1学期実施より2学期実施で、満足度が減少しているクラスがあった。	・予測不能な社会の変化に適応し、多様化する生徒の状況に合わせた指導の在り方を常に考え、システムを構築していく。 ・学年だけでなく、学校全体として報告、連絡、相談の徹底を図る。また、保護者へのきめ細やかな連絡を徹底する。 ・生徒会の活性化を図り、生徒の自主性を高める行事や授業づくりを個々の教員が意識する。 ・クラスの生徒の状況を的確に把握し、支援の必要な生徒には個別に対応するとともに、ルールとリレーションのバランスの取れた居心地のよい、まとまりのあるクラスづくりに努める。 ・定期的に生徒会、PTA、地域と校則等に関して情報交換し、課題を考える機会を設定する。	・道徳の教科化でどんな成果があがっているのか。 ・教員間での連携を密にして、学校全体で課題に取り組めるよう、再度システムの構築をお願いしたい。 ・いじめやトラブルは、目に見えないところにも残っていると思われる。先生方が一人で抱え込まないよう、また、相談したい生徒が話しやすいような環境をつくっていただきたい。 ・いじめについては、教職員が深く理解し、協力して生徒と向き合い、ていねいな対応をお願いしたい。 ・不登校が減るといいですね。 ・生徒にとって安心できる環境がつくられていると感じる。ただし、Q―Uにおいて、学級満足度が50%以下の学級については状況を把握し、学年で対応をお願いしたい。 ・仲間づくりも大切だが、何かトラブルを抱えた時に、相談できる大人が必ずどこかにいることを教えてほしい。それだけで考え方が増えるように思う。 ・「玉城ちはる」さんの講演がおすすめです！

主要施策	施策目標 基本施策		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	読書活動の充実 ①朝読書の活性化 ②図書室利用の促進	・図書館を活用し、朝読書を活性化させて、読書活動を推進し、活字に慣れ、読解力を養う。 ・新型コロナウィルス感染症対策を取りつつ、できる限り図書館活動を維持する。 ・本とICT機器とのバランスの良い活用を模索する。	・図書館司書、スクールサポートスタッフ、図書ボランティアと連携し、開館や図書館便り、選書、イベントなど、生徒の図書館利用がより活性化する手立てを取る。 ・委員会活動を活性化し、生徒自身の力による図書館活動を推進する。 ・授業で図書館を活用する。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合85%以上を維持したい。 ・1ヶ月の平均読書冊数1人当たり3冊、平均貸出冊数1人当たり2冊を目標とする。	A	・教員アンケート「朝読書の徹底や図書館利用促進など、読書活動の推進に努めている」の項目は90.9%、保護者アンケート「学校は朝読書や図書館の整備、図書館だよりの発行など、読書に親しむ機会を設けている」の項目は92.7%と昨年度より伸びたが、生徒アンケート「学校は朝の読書や図書館利用など読書に力を入れている」の項目は76.8%だった。1月時点で月平均貸出冊数が2.1冊と、取り組みの成果は一定数出ているにもかかわらず、生徒達自身に「学校が読書に力を入れている」という実感がない。朝読書の定着により、現在の取り組みが「当たり前」だと感じ、逆に重点的に取り組んでいるという意識がないことが考えられる。 ・生徒アンケート「学校は朝の読書や図書館利用など読書に力を入れている」でのA評価が42.1%になっているということは、図書館をよく利用する生徒が限定されがちなこと、図書館祭りなどの行事で来館する生徒の多くがそれ以外の機会には来館しないことなどが原因になっている可能性がある。	・図書委員会を中心に普段からクラスや学年で声かけを行う。 ・より多くの生徒が図書館に親しめるようなイベントや取り組みを計画し実施する。	・朝の読書は良いと思うので、継続してほしい。成果も出ると思う。 ・本の魅力を、もう少し生徒にアピールする機会を設けてはどうか。本が好きになれば、読書の時間も図書館の利用も増えるはず。 ・休み時間や放課後の図書室の開館、自由な出入りは検討できないでしょうか。人の配置が足りないなら、先生方が、職員室ではなく図書室で作業や業務にあたるのも一つかと思います。 ・図書館を利用する生徒が限られているのは、小学校でも同様です。 ・教員アンケートと生徒アンケートとの意識の差がどこから出てくるのかを探ってください。
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	・心の健康の保持増進のため、体力の向上を図る。 ・食育や健康指導を通して、心身ともに、健康な体づくりを行う。	・「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、実行力を育むことを目指し、保体委員会をさらに活性化し、全校生徒に健康に関する情報を発信する機会を増やす。 ・病気や怪我の予防、食育など、健康増進に関する情報を掲示板や保健だよりなどで、引き続き広報する。 ・生徒への個別指導や保護者連絡をとりながら健康管理をすすめるなどの連携をとり、健康増進を目指した取り組みを推進する。 ・給食について、衛生面の指導、アレルギー対応を行う。 ・体力の向上につながる取り組みをする。 ・新型コロナウイルス感染症対策のためにマスクの着用、手洗い・うがい、換気の徹底をさせる。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が85%以上になる。 ・保健だよりを定期的に発行する。 ・給食掲示を季節ごとに更新し、毎日の献立を掲示する。	B	・関係するアンケートの項目では、生徒、保護者、教員全て90%を超えた。 ・教員アンケートの関係する項目では、A評価が大きく増加している。 ・生徒、保護者アンケートの結果ではA評価が3ポイント程度減少していた。 ・保健や家庭科の授業を通して、病気の予防や健康な体づくりなどの健康増進について生徒に啓発した。また、掲示板や月1回発行の保健だよりを通して、定期的に健康に関する情報を発信した。 ・保体委員会や給食委員会では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、特に感染症対策について重点的に取り組んだ。 ・安心安全な給食実施に向けて、個人のアレルギー対応プランを作成し、家庭と連携しながら、毎月のアレルギー対応を確認した。衛生面での指導の徹底や備品の充実について、今後も継続して進める。 ・残食はほぼゼロで給食を食べており、毎日の献立を掲示することで給食に対する意識が高まった。 ・昼休みに換気を促す放送を行い、全校一斉に換気を行うことができている。	・授業を通して、健康に関する知識を習得するとともに、特に、スマホを使う時間や朝食を食べることなど、生活習慣について、学校と家庭が連携して健康管理について取り組みを行う。 ・自身の健康意識を高め、生徒の主体的な実行力を育てるため、委員会活動を活性化させる。 ・引き続き、掲示板、保健だよりなどを活用して、病気やけがの予防をはじめとする健康に関する情報を発信する。 ・保健室の掲示物が生徒の目に触れる機会が増えるよう、掲示場所を増やす。 ・保健だよりが生徒の目に触れる機会が増えるよう、教室に掲示する場所を作り、毎月の張り替えを保体委員会の取り組みに入れる。 ・学校給食を活用した食育に積極的に取り組む。 ・授業や部活動を通して、運動に取り組み、体力の向上につなげる。	・体力向上につながる具体的な取組が記入してあればよいと感じます。 ・休み時間に窓を開けて、思いっきり深呼吸する習慣づけも健康につながりますよ。 ・部活動は、自主的な活動なら活発にしてもらいたいが、生徒や教員に負担が大きい場合は、地域移行など改善していくべきだと思う。 ・食育に取り組み、学校と家庭が連携して、健康管理について取り組んでほしい。（改善策通りをお願いしたい。） ・残食ゼロは、無理のない形になっているでしょうか。 ・残食ゼロの取組には感心させられます。すばらしいと思います。 ・朝食もそうだが、睡眠時間の確保を指導してほしい。

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・生徒の将来を親身に考え、ひとりひとりに合った進路実現に向けた指導を行う。 ・正しい情報提供を図り、家庭との連携に努める。	・進路学習資料を活用し、自分の特性を見つめ、適切な進路を設計する力を養う。 ・トライやる・ウィークの取り組みを活用し、いろいろな職業があることを気づかせ、社会の一員になる意識付けを行う。 ・教育相談や三者懇談の時間などを生かして、生徒だけでなく保護者との対話時間も確保する。 ・1年生および2年生は毎学期、定期的にキャリア(進路)学習を行い将来への見通しと進路に向けての意識付けを行い、希望を持たせる取り組みをする。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合80%以上を維持する。特に生徒アンケートにおいては「A」「B」評価が95%、保護者アンケートにおいては「A」「B」評価が85%を超えており、本年度もこれを維持したい。	A	・生徒アンケート「学校は将来の進路について正しい情報提供や指導をしてくれている」の項目は96.8%（前年度96.9%）だったが、保護者アンケート「学校は将来の進路について正しい情報提供や指導を行っている」の項目では88.0%（前年度85.9%）と、生徒との意識の開きがあるが、前年度と比較しその差は小さくなった。 今年度、保護者アンケートの評価が高くなっているのは、コロナ禍の中で2年3学期と3年1学期の進路説明会が開催できなかった前年度と比べ、予定通り3回の進路説明会が対面で実施できたことが大きな要因であると思われる。 ・三者懇談会や教育相談などの機会を生かして、個に応じた進路についての対話時間を引き続き確保していくことを心がけ、生徒だけでなく保護者にもスクールタクトやGoogleクラスルームなどを活用し進路情報を積極的に伝え確実に届ける努力や工夫を今後も行っていく必要性を感じた。	・感染症対策をしっかりおこなっていきながら従来通りの進路説明会を確保していくとともに、スクールタクトやGoogleクラスルームでの配信などを活用して、積極的に情報発信し、伝える努力と確実に届ける努力を続けていく。 ・新生活様式の中で進路情報も刻々と変化していっている。特に本年度はWeb出願の高校が増え、手書き願書での出願は少数派となった。操作方法や受験料振込のタイミングなど保護者との意思疎通をしっかりと図り、連絡を密にする必要がある。 ・学校における進路の取り組み内容や関連する活動を計画的に推進するとともに、保護者にも進路通信などを活用し、引き続き、積極的に情報を発信する意識を持って伝えていく。	・進路については、親世代に比べ選択肢が広がっている面、情報収集が追いつかず、情報が不足していると感じるところがある。デジタルで情報を提供してもらえるとありがたいのではないか。 ・家庭でも話し合っているとは思うが、先生方のアドバイスは重要です。人生の選択ですので、一人一人に合った進路先を導いてください。 ・進路指導の充実を感じます。将来に夢を持ちにくい時代ですが、キャリア教育の充実を期待します。 ・何をもってキャリア教育というのか。中学校段階で必要なキャリア教育とは、具体的な職業を指向することなのか。疑問に感じる。どのような進路に向かう時でも、必要な準備をしっかりと続けられる思考の確立こそが、この時期のキャリア教育だと考える。 ・必死に勉強し続ける時間は、受験で終わるのではないので、一生続けられる、しっかりとした論理的思考力を身につけてほしいと願う。 ・三者懇談会や教育相談など、先生方と生徒、保護者が直接話ができる環境の設定が一番大事だと感じる。
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・特別支援学級生及び必要に応じて通常学級の生徒に対しても個別の指導計画を作成し、適切なサポート体制を強化する。 ・特別支援教育に関わる教職員と日常的に連携をはかりながら、特別支援教育推進委員会や学年会議などで生徒の情報を共有し、適切な支援につなげる。	・個別の指導計画の作成が生徒支援の充実につながるよう、適切な時期に適切な方法で作成し、学年の共通理解につなげる。そのために、特別支援教育推進委員会から全教職員に周知し、サポートファイルの内容を検討する。 ・配慮が必要な生徒、個別の支援が必要な生徒を年度当初に確認し、特別支援教育推進委員会で共通理解する。生徒情報入力ファイルを作成し、毎週木曜日に行う特別支援教育推進委員会で情報共有を行う。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。	B	・アンケートでは、前年度よりも「A」「B」評価が増加し、「A」「B」評価合わせて90%を超えた。 ・サポートファイルを同じロッカーで管理し、全校で誰もが指導計画を把握する事を継続した。 ・特別支援教育推進委員会で個別の支援が必要な生徒の共通理解を図ったことで、学年間での情報共有がスムーズに行われるようになった。特に委員会メンバーの経験から進路の情報が共有され、具体的な支援の方向性を学年に伝えることができた。 ・通級指導が定着し、個に応じた指導が充実した。 ・学習支援員のサポートによる放課後学習や個別指導が定着し、学習に対する意欲が向上した生徒がさらに増えた。	・個別の指導計画の作成が定着し、学年の中で個々の生徒について活発に情報共有がされるようになり、特別支援教育への意識は高まりつつある。これらが評価が上がった要因と思われるが、一人一人の生徒を具体的にどう支援していくかの学びや実践に関しては、まだ途についたばかりであると言える。 ・特別支援学級担任、生徒支援担当、通級担当、特別支援教育支援員、保健室、関係機関など、様々な立場の教職員が情報を共有し連携することで、一人一人の生徒をよく見て様々な機会を捉えて支援を行うことができるようになってきている。これからも対話を重ねながら、生徒が必要な支援を受けられる手立てを講じる努力が必要である。	・改善策の「一人一人の生徒」のために、ワンチームとなって取り組んでほしい。特に、個別の対応は継続してほしい。 ・支援員が、フルタイムの勤務ではないので、負担が大きいのではないかと心配する。 ・全ての教職員が連携して、生徒が必要な支援を受けられるよう尽力をお願いしたい。 ・小学校から中学校になり、大きく変わるのが教科担任制です。個別指導が必要な生徒にとって、自立と支援のバランスが難しいと感じます。 ・小中連携として、中学校での参観や保護者説明会、小学校での保護者会への参加など、様々な取組に感謝しています。

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	教職員の資質向上 ①研修等の充実	・生徒や保護者の評価や学力調査の結果を検証し、授業等の改善や工夫につなげる。 ・学力向上のための手立てを共有し、効果を検証する。	・単元の中にプロジェクト型学習を取り入れた、授業づくりを行う。 ・効果的なめあてを検討するための研修会や強化週間を設定する。 ・授業スタンダード「笹スタ5」を基に普段の授業の充実を図る。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上になる。	B	・生徒アンケート「毎回の授業で「めあて」が示されている」の項目でA評価が2ポイント増加し、教員アンケート「毎回の授業で「目当て」を示している」の項目でA評価が4.8ポイント増加した。 ・生徒アンケート「授業の最後に学習内容を振り返る活動が行われている」の項目でA評価が7.5ポイント増加し、教員アンケート「授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っている」の項目でA評価が10.2ポイント増加した。	・研修を重ねる中で「めあて」と「振り返り」を意識して取り組む場面が増えてきている。今後も改良を重ねながら、より効果的な方法に発展できるよう取り組み続ける。特に、「振り返り」の質の向上と内容の区別化・明確化を行う。 ・プロジェクト型学習を進める中で、できることや効果的だったことを教科を横断しながら共有していく必要がある。 ・「笹スタ5」にある、授業の中に必ず「考える時間」（Thinking Time）を取り入れることを心がけて、生徒が自ら問いを生み出し、理解を進めることができるようにする。	・先生方の授業の質の向上が、生徒の学力向上になりますので、今後も授業力向上のための改善に努めていただきたい。 ・研修等の充実で、教職員が、自ら学ぶ姿勢を生徒に見せてほしい。 ・小中連携での夏季研修会が、とても充実していました。 ・中学校の膨大なカリキュラムを消化していく中で、「振り返り」の時間をさくことは大変だと思うが、研修を積み重ね、質の充実を図っていただきたい。 ・教員の働き方改革が言われるが大きな矛盾があり、文科省が相当の改革を行うべきである。 ・先生方には習熟度別の対応、ICTの活用など、生徒のやる気と興味をひく授業づくりを研究してほしい。学校が塾の補完的立場になってはいけない！
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・学校教育目標や教育方針、行事、その他の取り組みについて、保護者や地域に広く情報発信する。 ・学校教育活動について、学校と保護者、地域の相互理解を深める。 ・コミュニティスクールとして、保護者や地域と連権を図る。	・学校だよりや学年だよりなどの配付物のデジタル配信、正門横をはじめとする校内の掲示板への掲示、地域の会議等への参加、ホームページの随時更新等により、学校教育目標や教育方針、行事や授業等の取り組みの様子を発信し保護者や地域の人々に広くPRする。 ・学校行事やオープンスクールなどを公開し保護者や地域に広く案内するなど、学校への来校や学校教育活動への参加の機会を設定する。 ・PTAや学校運営校議会を中心に学校支援ボランティアへの参加を促し、保護者や地域の方々との連携をすすめる。 ・生徒会を中心として、地域ボランティアの活性化を図る。	・学校だより、学年だより、その他配付物についてデジタル配信を行うとともにホームページを週5回以上更新する。 ・学期に1回オープンスクールを実施する。 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底のうえ、保護者および地域の方が参加可能な学校行事を開催する。 ・月1回、PTAとの会議を開催し、情報交換を行う。 ・生徒アンケートの項目「地域活動に参加したい」の「A」「B」評価の割合が、70%以上になる。	A	・学校だより、学年だより、学級だより、その他の配付物について、GoogleFormsおよびSchooltakt等を活用しデジタル配信を行い、学校HPは週5回以上更新した。 ・生徒アンケート「学校だよりや学年だよりなどで学校のことがよくわかる」の項目では92.0%、保護者アンケート「学校は、学校の教育方針や行事、活動などを学校だよりや学年だより、ホームページなどを通じて保護者に伝えている」の項目では97.8%が肯定的な評価となった。 ・体育大会、文化祭について、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて保護者の参観が可能な形で開催し、学期に1回、オープンスクールを実施した。保護者アンケートでも「教育活動を公開している」は、10ポイント増加した。ただし、来賓および地域の方の参加は不可能だった。 ・月1回、PTAとの会合を開催し、学校教育活動の様子について情報提供するとともに、各行事の開催方法や校則等について協議した。 ・校区内の幼稚園や保育園、小学校と連携し、行事への参加やイベントを開催した。 ・保護者による学校支援ボランティア（図書、園芸、土曜学習）の活動が定着し、内容も充実している。 ・生徒アンケート「地域の行事に参加したい」の項目では73.5%が肯定的な評価となり、昨年度と同程度である。	・学校だよりや学年だよりの配付について、今年度から完全に紙からデータでの配付に変更したが、生徒の92.0%、保護者の97.8%が肯定的な評価であったので、今後も継続する。 ・地域へのボランティア活動を引き続き推進する。 ・生徒会を中心に参加型地域学習などを企画する（笹フェスの継続等）。 ・個人情報に留意しつつ、各種行事や講演会、部活動など学校の様子が具体的にわかるよう随時ホームページを更新し啓発に努める。 ・学校運営協議会委員やCSディレクターと連携し、ホームページやコミュニティスクールだより等を活用して、地域や保護者へ学校教育活動の様子を積極的に発信するとともにコロナ禍における参加方法を調査、研究する。 ・ボランティアマスターの認定を継続する。	・今後も、コミュニティスクールの充実を図り、地域と学校との連携が図れるよう学校運営協議会として努力していきたい。 ・地域の行事がまだまだできていないので、交流が少なくなっているのが残念です。 ・学校行事の様子を、参観日やオープンスクールで放映されていた取組がすばらしいと思いました。 ・学校運営協議会をアドバイザー的役割にとどめるのではなく、独自の役割と責任を負うことも必要ではないかと思う。具体的に地域や保護者に求められこととは何なのかを熟議したい。

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
教育環境の整備・充実	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・自転車交通安全教室や防災訓練を通して安全に生活する事や自分の命を自分で守ろうとする意識を高める取り組みを行う。 ・災害や犯罪から身を守るすべについて、具体的に学習する場を設ける。 ・清掃活動を活性化し、教育環境を整える。 ・安全点検を徹底し、安全・安心な学校づくりを進める。	・自転車交通安全教室を発達段階に応じて内容を吟味して実施する。 ・年2回の防災訓練に向けた事前学習の徹底を図り、防災意識の高揚を図る。 ・防災や安全に関する情報を随時活用し、実生活とのつながりを意識させるような学習を企画する。 ・実態に即した防災マニュアルの見直しと作成を行う。 ・美化委員を中心として清掃用具の整備を行う。 ・安全点検を実施するための時間を確保する。 ・「もくもく清掃」に取り組む。 ・学校環境をきれいな状態に保つ。 ・委員会の強化月間において、クラスの清掃を見直す期間を設ける。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。 ・年2回避難訓練を実施する。 ・講話や講習などを年3回以上実施する。 ・月1回、清掃用具の破損や不足を点検する。	B	・生徒・保護者アンケートともに該当項目において90%近い肯定的な評価を得ているが、令和3年度に比べるとややポイントが下落した。 ・教職員では80%を下回る項目が見られた。 ・災害を具体的に想定した訓練の実施を含め、年2回の防災訓練を実施できた。 ・1年生対象に自転車交通安全教室を実施した。 ・2・3年生への自転車交通マナーの注意喚起の講習・講話は実施できなかった。 ・防災安全マニュアルの見直しは実施したが、実態に即した改定は課題が残る。 ・生徒達が綺麗に施設や用具を使用する意識が高まり、アンケートでも生徒・保護者ともに、90%以上が良い評価をつけた。しかし、「A」評価の割合が下がっているため、対策の徹底、改善が必要である。 ・行事予定にも安全点検実施と記載してるが、取り組みを促すアナウンスができていなかった。 ・月1回の専門委員会後、清掃用具箱の中の掃除用具チェックを着実に行っている。 ・美化委員で朝の掃除や落ち葉拾いを行ったが、活動期間が遅く、短かったため、活動実施期間の見直しが必要。 ・「もくもく清掃(無言清掃)」が新入生にも少しずつ定着しているが、「もくもく清掃」ができているとは言いがたい。	・令和3年度よりやや肯定意見が下がっていたため、生徒への注意喚起だけでなく、保護者に向けても情報発信を積極的に行う。 ・1月の地震想定防災訓練では、生徒への予告なしで実施したが、生徒はテキパキと行動していた。継続していく予定である。 ・教職員には、防災マニュアルの内容を細部まで把握し、マニュアル通りに動けるように研修会等を行う。 ・2・3年生対象の自転車に関する知識を身につけさせる。 ・防災マニュアルを実際の災害をより想定した内容へ改善していく。 ・美化委員を中心として、月1回の掃除用具の点検と整備活動を行う。 ・月1回の安全点検を呼びかけ、教員の点検漏れがないかを分かりやすくするために、紙でのチェックからデータ入力へと変更したので、係りから各学年への遅かったデータ入力の声かけをこれからも徹底する。 ・「もくもく清掃(無言清掃)」時に喋ってしまう生徒がいるため、生徒への注意を美化委員にさせる。また、指導時になぜ「もくもく清掃」を行っているのかを伝える必要がある。 ・朝の清掃活動や落ち葉拾いはボランティアや部活動と連携してする。 ・現在使っている机と椅子を、古いものは新しいものに入れ替えていく。	・防災教育を座学や避難行動だけに終わらせないように、中学生の災害対応スキルを高める取組ができれば、まさかの時に、自分たち自身を守るだけでなく、コミュニティ(地域)でも役に立つ人材となると思います。 ・ロープワークや火起こし、浄水器等のワークを取り入れることが有効。 ・72hサバイバル協会等が、出前授業をしてくれます。 ・災害はいつ起こるかわからないので、日々の確認と訓練が必要だと思う。場合によっては、地域を含めた防災訓練も必要です。 ・安全、安心な教育環境を目指し、取り組みを継続してほしい。 ・安全、安心な学校、校区であってほしいので、共にがんばりましょう。 ・例年より、廊下やトイレ掃除を熱心にされていると感じた。教室棟1Fのトイレがとてもきれいでした。

学校関係者評価総括

・コロナやデジタルなど教育の改革が進む中、生徒も教員もよく頑張っておられます。全体的に良くなっていると思います。今後も校長と教職員が団結して生徒一人一人のために尽力できるよう、学校運営協議会として協力していきます。

・コロナ禍が3年に渡り、学校・社会に閉塞感が漂う中、前向きな中学校生活が送れるよう対応くださっていると思います。ただ、学校がどこまで、家庭教育をフォローするべきか悩む点です。教職員の働き方改革も、矛盾が大きいと感じます。

次年度に向けた重点的な改善点

・課題についても、改善点が示されているので、取り組みの実践・実行をお願いしたい。

・不登校対応や特別支援教育は、信頼が必要なので、手厚い対応の継続をお願いしたい。

・部活動の縮小(教員、生徒の時間確保)。

・脱コロナ、ウィズコロナを、文科省・市教委に委ねるのか、笹中としてのスタンスをもつのか、考える余地があると思います。

自己評価の基準　A:目標を上回った　B:目標どおりに達成できた　C:目標をやや下回った　D:目標を大きく下回った